

### 3. 2017 年度活動概要

バイリンガリズム研究は 1996 年設立以来、CALP や PISA 型リテラシーの発達や育成について研究し、日本の内外におけるバイリンガル教育について調査を行っています。2017 年度はこれまでに小学校、中学校、高等学校を対象として行ってきた研究をさらに発展させ、大学レベルでの言語教育はどうあるべきかをバイリンガリズムの観点から検討しました。「EAP 教育の開発とその評価—バイリンガリズム理論における CALP 発達の観点から」をテーマとして、3 か年プロジェクトの 1 年目として以下の活動を行いました。

#### 1. 理論研究

EAP の基本概念を確認するために月 1 回のペースで研究会を開催して以下の本を輪読しました。1) 『高校英語授業を知的にしたい』(三浦他 2016), 2) *Introducing English for Academic Purposes*, (Charles and Pecorari, 2015), 3) *English for academic purposes: an advanced resource book*, (Hyland, 2006)。また、新しい概念である Translanguaging について講師をお招きして考察を深めました。

#### 2. EAP ニーズ分析アンケートパイロット版構築と実施

EAP とは、通常、英語圏の大学で英語を母語としない学生が授業についていくのに必要な英語を教えるプログラムを指しますが、本研究会では、「日本人の大学生 1、2 年生が、専門の内容の英語活動に参加できるようになるためのプログラム」構築を目指すことにしました。その第 1 段階として EAP ニーズ分析アンケートを作成し、具体的な項目として 1) 学習者の英語力・英語使用経験に関するプロフィール、2) 高校で経験した英語科目の学習活動形態、3) 高校での、英語以外の教科—国語、理科、社会における言語学習形態、4) 英語の必要性をカバーする 27 項目についての調査を Moodle で試行しました。

#### 3. 学会発表

活動の成果を以下のように発表しました。

- 1) LET 関東支部大会 (2017.6.17) 『高校英語から大学 EAP 教育への橋渡し教育のあり方—思考を伴う「発問とタスク」にフォーカスして』
- 2) JACET 国際大会(2017.8.30) 研究会ポスター発表
- 3) 2018 言語教育エキスポ(2018.3.4) 『高校英語から大学 EAP 教育への橋渡し教育のあり方—思考を伴う「発問とタスク」にフォーカスして』

#### 4. 情報公開

研究会のウェブを運営し情報発信しました。 <http://www.jacet-bilingualism.jp/jp/>